

■正誤問題 (要点確認 37 問)

集合住宅に関する記述です。○×で回答して下さい。×の場合は、なぜ間違っているのかも考えてみましょう。

1. リビングアクセス型の住宅は、一般に、各住戸の表情を積極的に表に出すことを意図して、共用廊下側に居間や食事室を配置する。
2. ポイントハウスは、階段、エレベーターをコアとし、その周囲に住戸を配置した搭状の集合住宅である。
3. 板状住宅は、棟の長さが奥行に比べて長い形をしたものであり、二棟以上を平行に配置する場合には、隣棟間隔やプライバシーに配慮する。
4. スケルトン・インフィル住宅においては、居住部分の間取りや内装仕上げ、設備等について、入居者の希望を反映することができる。
5. コーポラティブハウスは、各居住者が独立した生活を確保しながら、厨房や食堂等を共用する方式の住宅であり、高齢者住宅にも適している。
6. 間口が狭く、奥行きが深い住戸内の快適性を考慮して、ライトウェル（光井戸）を設けた。
7. 各住戸の玄関前にアルコーブを設け、非常時の避難を考慮して、玄関扉を外開きとした。
8. 高層集合住宅では、2方向の避難経路を確保する点からも、バルコニーを計画することが重要である。
9. エレベーターから各住戸への動線を短縮するために、スキップフロア型とした。
10. 火災時の2方向避難を考慮して、各住戸にバルコニーを設けた。
11. メゾネット型は、一般に、フラット型に比べて、プライバシーを確保しやすい。
12. 集中型は、一般に、片廊下型に比べて、廊下などの共用部分の面積を少なくすることができる。
13. 景観に変化をもたらすためには、低層住宅、中層住宅及び高層住宅を混用するののも一つの手法である。
14. 中廊下型は、一般に、階段室型に比べて、通風や日照を確保しにくい。
15. 片廊下型は、一般に、階段室型に比べて、エレベーター1台当たりの住戸数を多くすることができる。
16. メゾネット型は、1住戸が2層以上で構成される住戸形式であり、一般に、1住戸当たりの床面積が大きくなる。

17. ポイントハウスは、搭状に高く、板状型の住棟ばかりで単調になりがちな住宅地の景観に変化をもたらすことができる。
18. コーポラティブハウスは、住宅入居希望者が集まり、協力して企画・設計から入居・管理までを運営していく方式の集合住宅である。
19. スケルトン・インフィル住宅は、間口が狭く、奥行きが長い住戸内にライトウェル(光井戸)を設ける集合住宅である。
20. 共用の中庭を中心にそれを囲んで配置される形式の集合住宅を、テラスハウスという。
21. エレベーターの操作ボタンの高さは、車いす使用者を考慮して、床面から 110cm の位置とした。
22. 住戸内の給水・給湯配管は、管の更新を容易にするために、さや管ヘッダ方式とした。
23. 間口が狭く、奥行きが長い住戸内の快適性を考慮して、ライトウェル(光井戸)を設けた。
24. 各住戸のプライバシーと通風をできるだけ確保するために、階段室型ではなく、片廊下型の平面計画とした。
25. 子供が飛び跳ねたりする音を下階に伝わることを低減するために、床スラブを厚くした。
26. コーポラティブハウジングは、各居住者が独立した生活を確保しながら、厨房や食堂等を共用する方式であり、高齢者住宅にも適している。
27. スキップフロア型は、一般に、エレベーターから各住戸への動線が長くなる。
28. 片廊下型は、各住戸の採光等の均一化を図れるが、共用部分の通路側に居室を設けた場合、その居室のプライバシーを確保しにくい。
29. 接地型におけるコモアクセスは、居住者が共用庭を通過して各住戸に入ることにより、居住者同士の交流を促しやすい。
30. メゾネット型は、一般に、フラット型に比べて、共用部分の通路の面積を少なくすることができる。
31. メゾネット型は、1 住戸が 2 層以上で構成された住戸形式で、一般に、専用面積の小さな住戸には適さない。

32. リビングアクセス型は、各住戸の表情を積極的に表に出すことを意図して、共用廊下側に居間を配置する形式である。
33. テラスハウスは、各住戸がそれぞれ土地に接し、専用庭をもっている。
34. スキップフロア型は、共用廊下を介さずに、外気に接する2方向の開口部をもつ住戸を設けることができる。
35. 中廊下型は、一般に、住棟を東西軸に配置することが多い。
36. 住戸の形式や規模を決めるうえで、居住者のライフサイクルや個性化への対応も大切な要素である。
37. 自ら居住するための住宅を建設しようとする者が集まり、協力して企画・設計から入居・管理までを運営していく方式の集合住宅を、コーポラティブハウスという。



■正誤問題 解答編

1. リビングアクセス型の住宅は、一般に、各住戸の表情を積極的に表に出すことを意図して、共用廊下側に居間や食事室を配置する。
1. ○
2. ポイントハウスは、階段、エレベーターをコアとし、その周囲に住戸を配置した搭状の集合住宅である。
2. ○
3. 板状住宅は、棟の長さが奥行に比べて長い形をしたものであり、二棟以上を平行に配置する場合には、隣棟間隔やプライバシーに配慮する。
3. ○
4. スケルトン・インフィル住宅においては、居住部分の間取りや内装仕上げ、設備等について、入居者の希望を反映することができる。
4. ○ **スケルトン・インフィル住宅は、二段階供給方式住宅とも呼ばれ、第一段階で、スケルトン部分（躯体や共用部分）を提供し、第二段階で、インフィル（個別性の高い、間仕切りや内装部分）を供給する方式のものです。**
5. コーポラティブハウスは、各居住者が独立した生活を確保しながら、厨房や食堂等を共用する方式の住宅であり、高齢者住宅にも適している。
5. × **コーポラティブハウスは、住宅を建てたい人達が集まって協力、相談し、建築する集合住宅のことである。記述は、コレクティブハウスの説明です。**
6. 間口が狭く、奥行きが深い住戸内の快適性を考慮して、ライトウェル（光井戸）を設けた。
6. ○
7. 各住戸の玄関前にアルコーブを設け、非常時の避難を考慮して、玄関扉を外開きとした。
7. ○
8. 高層集合住宅では、2方向の避難経路を確保する点からも、バルコニーを計画することが重要である。
8. ○
9. エレベーターから各住戸への動線を短縮するために、スキップフロア型とした。
9. × **スキップフロア型は、2階または3階おきに廊下を設け、廊下階から階段によって各住戸に達する形式です。エレベーターから各住戸への動線は長くなります。**
10. 火災時の2方向避難を考慮して、各住戸にバルコニーを設けた。
10. ○

11. メゾネット型は、一般に、フラット型に比べて、プライバシーを確保しやすい。

11. ○

12. 集中型は、一般に、片廊下型に比べて、廊下などの共用部分の面積を少なくすることができる。

12. ○

13. 景観に変化をもたらすためには、低層住宅、中層住宅及び高層住宅を混用するのも一つの手法である。

13. ○

14. 中廊下型は、一般に、階段室型に比べて、通風や日照を確保しにくい。

14. ○

15. 片廊下型は、一般に、階段室型に比べて、エレベーター1台当たりの住戸数を多くすることができる。

15. ○

16. メゾネット型は、1住戸が2層以上で構成される住戸形式であり、一般に、1住戸当たりの床面積が大きくなる。

16. ○

17. ポイントハウスは、搭状に高く、板状型の住棟ばかりで単調になりがちな住宅地の景観に変化をもたらすことができる。

17. ○

18. コーポラティブハウスは、住宅入居希望者が集まり、協力して企画・設計から入居・管理までを運営していく方式の集合住宅である。

18. ○

19. スケルトン・インフィル住宅は、間口が狭く、奥行きが長い住戸内にライトウェル(光井戸)を設ける集合住宅である。

19. × スケルトン・インフィル住宅は、二段階供給方式の住宅とも言われるものです。

20. 共用の中庭を中心にそれを囲んで配置される形式の集合住宅を、テラスハウスという。

20. × 共用の中庭を中心にそれを囲んで配置される形式の集合住宅は、コートハウスと言い、一般に、低層住宅地に採用されます。テラスハウスは、数戸の住宅を連続して一棟とする連続住宅の形式で、各戸に区画された専用の庭を持つものを言います。

21. エレベーターの操作ボタンの高さは、車いす使用者を考慮して、床面から110cmの位置とした。

21. ○

22. 住戸内の給水・給湯配管は、管の更新を容易にするために、さや管ヘッダ方式とした。

22. ○

23. 間口が狭く、奥行き長い住戸内の快適性を考慮して、ライトウェル(光井戸)を設けた。

23. ○

24. 各住戸のプライバシーと通風をできるだけ確保するために、階段室型ではなく、片廊下型の平面計画とした。

24. × **階段室型の方が、共用廊下部分が通り抜けにならないので、各住戸のプライバシーは高い。また、各住戸の両面に開口を設けることができるので、採光・通風の確保にも有利です。**

25. 子供が飛び跳ねたりする音を下階に伝わることを低減するために、床スラブを厚くした。

25. ○

26. コーポラティブハウジングは、各居住者が独立した生活を確保しながら、厨房や食堂等を共用する方式であり、高齢者住宅にも適している。

26. × **コーポラティブハウジングは、住宅建設希望者が集まって、各自の希望を考慮して住宅を設計し、建設する方式です。**

27. スキップフロア型は、一般に、エレベーターから各住戸への動線が長くなる。

27. ○

28. 片廊下型は、各住戸の採光等の均一化を図れるが、共用部分の通路側に居室を設けた場合、その居室のプライバシーを確保しにくい。

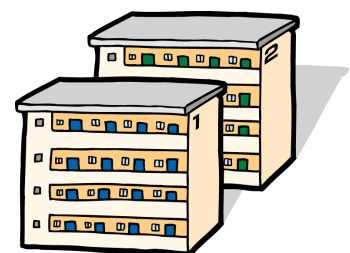
28. ○

29. 接地型におけるコモアクセスは、居住者が共用庭を通過して各住戸に入ることにより、居住者同士の交流を促しやすい。

29. ○

30. メゾネット型は、一般に、フラット型に比べて、共用部分の通路の面積を少なくすることができる。

30. ○



31. メゾネット型は、1 住戸が 2 層以上で構成された住戸形式で、一般に、専用面積の小さな住戸には適さない。

31. ○

32. リビングアクセス型は、各住戸の表情を積極的に表に出すことを意図して、共用廊下側に居間を配置する形式である。

32. ○

33. テラスハウスは、各住戸がそれぞれ土地に接し、専用庭をもっている。

33. ○

34. スキップフロア型は、共用廊下を介さずに、外気に接する 2 方向の開口部をもつ住戸を設けることができる。

34. ○

35. 中廊下型は、一般に、住棟を東西軸に配置することが多い。

35. × **中廊下型で住棟を東西軸にすると、日照が不均等になります。一般に、南北軸が多いです。**

36. 住戸の形式や規模を決めるうえで、居住者のライフサイクルや個性化への対応も大切な要素である。

36. ○

37. 自ら居住するための住宅を建設しようとする者が集まり、協力して企画・設計から入居・管理までを運営していく方式の集合住宅を、コーポラティブハウスという。

37. ○

パパ
きのう勉強した？

たまには息抜きも
必要なんだよ。；

